

全協No.2

市議会全員協議会資料
令和元年12月17日
(企画部 企画振興課)

中町／宇品航路の船舶の更新について

1 概要

- 令和元年6月、市は、(一財)地域公共交通総合研究所(以下「地公総研」)に対し、中町／宇品航路の公募条件の設定のほか、中町／宇品航路を就航している船舶の更新の必要性の判定について委託しました。
- その結果、地公総研からは、2隻の更新を推奨するとの報告を受けました。

2 中町／宇品航路を就航する船舶

市が所有する高速船3隻は次のとおりであり、各船ともエンジンの換装を行っているものの、進水から年数が経過しています。

	ニュー千鳥	スーパー千鳥	ロイヤル千鳥
総トン数	79.00	92.00	79.00
進水年月	平成5年9月6日	平成9年6月11日	平成5年7月30日
建造造船所	大阪 三保造船所	大阪 三保造船所	大阪 三保造船所
尺度(全長)	26.08	26.08	26.08
幅	6.80	6.80	6.80
深さ	2.30	2.30	2.30
喫水	1.542	1.725	1.542
速力 航海速力	26.00	26.00	26.00
旅客定員 1.5H未滿	220人	223人	188人
1.5~3.0H未滿	—	—	—
6.0H未滿	146人	160人	132人
船員	2人	2人	2人
機関型式	ヤンマー12LAK-ST2	ヤンマー12LAK-ST2	ヤンマー12LAK-ST2
エンジン換装	平成13年10月	平成19年8月	平成22年3月

3 報告書の概要

地公総研からは、船舶の現況及び更新の必要性等について、次のとおり報告がありました。

(1) 船舶の現況

- 船体、客室、エンジン、客室はよく整備・手入れされており、今後の耐用年数は10年以上あると判断できる。
- ただし、主機関であるヤンマー12LAK-ST2は約10年前にモデルチェンジのため製造停止となっており、同機の部品供給は今後5~6年程度と見込まれている。
- モデルチェンジ後の主機関はサイズアップされており、市所有船に取り付けることができない。また、主機関を小型化し換装した場合、現在の速力を維持できない。
⇒主機関の部品供給の終了を見越して、順次船舶を更新することを推奨する。

(2) 船舶に対する判定

- ◆ニュー千鳥：3隻のうち、最初に更新することが望ましい。
【理由】・主機関の換装(H13)から最も年数が経過しており燃料消費が多い。
- ◆ロイヤル千鳥：3隻のうち、ニュー千鳥の次に更新することが望ましい。
【理由】・座席数が最も少ない。
- ◆スーパー千鳥：当面は継続使用することが望ましい。
【理由】・3隻のうち、最も船舶の状態が良い。
・座席数が多く、朝夕の主力船舶として使用できる。また、指定管理者が自主事業に使用しやすい。

※なお、令和2年度から更新に着手する場合の想定スケジュールは次のとおり。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ニュー千鳥更新	仕様書作成	発注・寄工	進水・引渡 →旧船売却		
ロイヤル千鳥更新			仕様書作成	発注・寄工	進水・引渡 →旧船売却

(3) 更新が望ましい船舶のサイズ

- ◆ニュー千鳥：124総トン型双胴船高速旅客船(150名定員) ハリアー
- ◆ロイヤル千鳥：65総トン型双胴船高速旅客船(99名定員)

【理由】・朝夕の片道1便当たりで最も多い中町港6:55発便は、最大乗客数90.2名、平均78.5名(H30.10.1~R1.9.30)であり、更新後の船舶の座席数で対応が可能である。
・なお、運用実績及び経費節減の観点から、3隻のうち1隻は小型化を推奨する。
※造船費用は1隻4~5億円(税込)と見込まれる。

4 財源

財源確保について検討していきますが、原則的には、起債対応になると考えています。(過疎対策事業債50%、公営企業債50%)

5 今後の対応

船舶の更新は多額の経費が必要となるため、財政状況や次期指定管理者との協議を踏まえつつ、船舶の仕様や更新時期について検討していきます。